

提出日 2025 年 7 月 4 日

テーマ： スポーツパフォーマンスの向上法

心理福祉専攻 蔵前ゼミ

学籍番号 P022016 氏名 小寺心晴

1. 研究の目的

近年の研究では、スポーツパフォーマンスの向上に影響を及ぼす様々な要因として、栄養バランスや睡眠・休養の取り方など多くの問題があげられている。男子バスケットボールチームを対象に行った調査によると、睡眠時間が平均 6 時間 40 分だった場合、スリーポイントシュートの成功率が 15 本中 10.2 本だったのに対し、平均 8 時間 24 分に睡眠時間を延長することで 11.6 本とパフォーマンスが向上した (AZCARE 株式会社、2023)。

本研究では、スポーツパフォーマンスを向上させるために栄養の良い食事とはどのようなものなのか、睡眠・休養の正しい取り方とは何かについて調査を進めていく。なぜパフォーマンスの向上には食事や睡眠が関係しているのか、文献調査やアンケート調査の結果分析を行い、その要因を明らかにする。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7 月～10 月 文献調査・論文執筆

11 月～12 月 推敲・論文完成

4. 参考文献

AZCARE 株式会社 (2023 年 5 月 4 日) 「アスリートのパフォーマンスにおける睡眠の重要性とリカバリー戦略」

https://academy.azcare.jp/owned_media/athlete_sleep/

提出日 2025 年 7 月 4 日

テーマ：美を通じた自己形成

心理福祉専攻 蔵前ゼミ

学籍番号 p022022 氏名 武方萌彩

1. 研究の目的

美容は、外見を整えるだけでなく、自己表現や自己肯定感を高める手段として現代社会で重要な役割を果たしている。美容は、従来「女性のもの」という固定観念が根強かったが、近年ではその枠を超えた男性も美容に対する関心を高めている。ジェンダーレス化や多様性の尊重といった価値観の変化が、美容の在り方に大きな影響を与えていていると考えられる。これには、ライフスタイルの変化や SNS の普及が大きく関わっていると推察される。

女性には「美」を求めるプレッシャーが強調される一方で、男性の美容意識は清潔感や身だしなみに重きを置く傾向があるのはなぜだろうか。本研究では、男女それぞれの美容に対する意識や行動の違いに焦点を当てるとともに、それらがどのように形成され、社会に影響を及ぼしているのかを明らかにする。アンケート調査の結果分析や文献研究を通じて、その要因を明らかにするとともに、年代によって美容に対する印象が異なる理由についても検討する。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7 月～10 月 文献調査・卒業論文執筆

11 月～12 月 推敲・卒業論文完成

4. 参考文献

NERO DOCTOR (2024 年 4 月 1 日) 「6600 人にアンケート！2023 年 男女の美容医療に関する意識はどう変わった？ジャンル別利用率の変化・傾向から 2024 年を考える」

<https://nero-drbeauty.com/dermatology/1996/>

提出日2025年7月4日

テーマ：お酒について

心理福祉専攻 蔵前ゼミ
学籍番号P022035 向井瞳子

1. 研究の目的

お酒の消費量は、1990年頃をピークに増加し、以降減少している。都留康（2024）はこの理由について、経済的要因だけでなく、健康意識の高まりのような社会的要因もあるとし、厚生労働省の国民生活基礎調査で「お酒を飲み過ぎないようにしている」と回答する人の割合が増えていることを指摘している。お酒市場は、経済的要因に加え、健康的意識の高まりや、感染症による行動制限などが、さまざまな社会的变化の影響を受けやすいといえる。

しかし、最近では、クラフトビールやナチュラルワイン、焼酎などがブームとなっており、依然として高い人気を保っている。

そこで本研究では、時代とともに変化するお酒の飲み方に注目し、現代の人々がお酒をどのように認識し、どのように付き合っているのかを明らかにする。また、心理学的視点から、心と身体にとって効果的な飲酒方法についても明らかにする。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7月～11月 文献調査・データ収集・分析・論文執筆・推敲

12月 論文完成

4. 参考文献

nippon.com (2019年5月22日) 「酒を飲まなくなった日本人：1人あたり消費量ピークの2割減成人人口と1人あたり酒類消費量」
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00458/> (2025年6月26日閲覧)

朝日新聞GLOBE+ (2024年8月14日) 「健康志向、人口減…日本の酒消費量は将来も減少？経済学の視点で専門家が分析」
<https://globe.asahi.com/article/15364848> (2025年6月26日閲覧)

提出日 2025年7月3日

テーマ：ファストファッションが若者に人気のある理由とその社会的影響

心理福祉専攻 蔵前ゼミ

学籍番号 P022042 氏名 渡邊彩乃

1. 研究の目的

現代においてファッショントレンドは、単なる衣服の選択にとどまらず、個人のアイデンティティや自己表現の手段として重要な役割を果たしている。そしてファストファッションは、最新のトレンドを反映しながらも低価格で提供されるところから、多くの人に利用されている。特に若年層においては、他者から「可愛い」「お洒落」と思われるという対人意識が、消費行動やファッションを選択する際に大きく影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

そこで本研究では、近年急速に拡大しているファストファッションが、なぜ多くの若者から支持されているのかを明らかにすることを目的とし、消費者の心理的動機や経済的要因、SNS やインフルエンサーの影響など、多角的な視点から調査を行う。さらに、ファストファッションの普及によって生じている環境問題や労働問題といった社会的影響についても注目し、今後のファッション業界の在り方についても検討する。

2. 方法

- ・文献調査

3. 今後の計画

7月～10月 文献調査・論文執筆

11月～12月 推敲・論文完成

4. 参考文献

PATCH THE WORLD (2024年11月11日) 「ファストファッションとは？低価格の裏側にある深刻な問題と解決に向けた取り組みをご紹介」

<https://mannen.jp/patchtheworld/15078/>

提出日 2025 年 7 月 2 日

テーマ：『週刊少年ジャンプ』で連載されている作品がヒットしている秘密

心理福祉専攻 蔵前ゼミ

学籍番号 P022504 氏名 太田 美悠

1. 研究の目的

近年、『週刊少年ジャンプ』に連載されている作品の漫画の売り上げが伸びている。2024年の調査によると、TSUTAYAの年間販売BOOKランキングのコミック部門の1位は『呪術廻戦』、2位は『ONE PIECE』、3位は『SPY×FAMILY』、4位は『僕のヒーローアカデミア』、5位は『HUNTER×HUNTER』で、1～5位の作品が全て『週刊少年ジャンプ』に掲載されている作品である(TSUTAYA)。

なぜ、『週刊少年ジャンプ』に連載されている作品が数多く大ヒットしているのか。本研究では、『週刊少年ジャンプ』に連載されている大ヒット作品の内、3つを例として取り上げ、週刊少年ジャンプの魅力について調査を進める。なぜ、『週刊少年ジャンプ』に連載されている作品の漫画が数多く大ヒットしているのかについて、文献調査を行い、その要因を明らかにする。また、『週刊少年ジャンプ』がライバル誌とどのように差別化を図っているのかについても検討していきたい。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7月～10月 文献調査・論文執筆

11月～12月 推敲・論文完成

4. 参考文献

TSUTAYA「2024年度 TSUTAYA 年間販売 BOOK ランキング：コミック総合」(集計期間：2024年1月1日～2024年11月30日)

<https://tsutaya.tsite.jp/article/store/3257.html>

Yahoo!ニュース(2024年8月27日)「部数健闘誌多数…少年向けコミック誌の部数動向(2024年4月～6月)」

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/cb66a3287a30a1fd6b80eb996f18b2dee7cb7ee0>

提出日 2025年6月30日

テーマ：動物が人間に与える影響

心理福祉専攻 藏前ゼミ

学籍番号 P022505 氏名永井鈴菜

1. 研究の目的

動物はペットとしてだけではなく、補助犬やアニマルセラピー犬、警察犬などとしても活躍している。また、現在、ペットを飼う人は増加傾向にあり、ニーズは多様化している。

なぜペットを飼う人が増加しているのか、その背景や推移にはどのような特徴があるのか。また、人はなぜペットに癒されるのだろうか。

本研究では、動物が人間に与える影響にはどのような効果が期待できるのかをホルモンの関係やアニマルセラピーなどを中心に調査を進める。なぜ人は動物に興味を持つようになったのかについて文献研究を行い、その要因を明らかにする。また、アニマルウェルフェアについても考え、動物に関わる際に必要なアニマルリテラシーの理解度についても検討したい。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7月～10月 文献調査・論文執筆

11月・12月 推敲・論文完成

4. 参考文献

大村敬（2022年10月1日）「アニマルセラピーで、人と犬が共に健康で幸せに生きる社会に」（日本義肢装具学会誌）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspo/38/4/38_285/_pdf/-char/ja

最相葉月（2023年10月25日）「ペットは人を幸せで健康にするのか？科学的証拠の現状」（日本経済新聞）

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UC136PZ0T11C23A0000000/>

提出日 2025年7月4日

テーマ：未成年者におけるSNS利用の実態と課題

心理福祉専攻 森ゼミ

学籍番号 P022006 氏名 岩崎未侑

1. 研究の目的

SNSを通じたいじめ・犯罪は、毎年起こっている。本研究では、年々増加傾向にあるSNSを通じたいじめ・犯罪の実態と、その背景を明らかにし、その課題解決を考察することを目的とする。特に、未成年者がインターネットやSNSを利用する際に直面する危険性やリスクについての情報伝達とその効果を調査する。そして、実際に発生した事例や事件を分析することで、危険要因や背景にある社会的・心理的因素を解明する。具体的には、未成年者のネットリテラシーや自己防衛能力の現状を把握し、どのような教育や啓発運動が効果的であるかを検討する。

また、本研究ではオンラインゲームの利用実態とその危険性についても調査をし、オンラインゲームの現状とその妥当性について考察する。特に、ゲーム内でのトラブルや依存症のリスク、暴力的なコンテンツの影響についても分析する。そして、未成年者の健全なゲームの利用を促進するための教育プログラムや規制の在り方について提言することを目的とする。

さらに、国内外の事例や制度の違いを比較分析し、各国の取り組みの遅れや成功例を抽出することで、日本における課題や解決策を提言する。

これらの調査・分析を通して、未成年者のネット利用に伴うリスクを理解し、家庭・学校・社会全体での効率的な対策や教育方針について考察していく。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

4月～7月 文献調査、分析、まとめ

9月～12月 論文執筆、推敲、完成

4. 参考文献

藤川大祐 (2008)『ケータイ世界の子どもたち』講談社現代新書

総務省 (2024)「令和5年度 青少年のインターネット利用環境実態調査結果」

https://www.cfa.go.jp/policies/youth-kankyou/internet_research/results-etc/r05

こども家庭庁 (2025)「諸外国における青少年のインターネットの利用を巡る課題と対策について」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/02dc20e9-a1af-4dd4-ac4f-a4a1a7308146/23e3a264/20250213_councils_internet-kaigi_02dc20e9_02.pdf

提出日 2025 年 7 月 4 日

テーマ：日本におけるアニマルウェルフェアの現状と課題

心理福祉専攻 森ゼミ

学籍番号 P022009 氏名 越智 沙莉果

1. 研究の目的

2023 年度に殺処分された犬と猫は合わせて 9017 匹であった（読売新聞オンライン 2025 年 4 月 19 日）。また、2024 年度における動物虐待事犯の検挙事件数は 161 件と、多く存在することが分かる（警視庁生活安全局、2025）。その他にも家畜の飼育では、動物たちが伸び伸びと生活できるスペースは確保されていない。また、輸送される際にもコンテナにぎゅうぎゅうに押し込められて出荷されている現状がある。本研究では、日本におけるアニマルウェルフェアの現状について調査し、課題を考察していく。

2. 方法

文献調査

インタビュー調査

3. 今後の計画

7 月～9 月 文献調査 インタビュー調査

10 月～11 月 執筆

12 月 推敲

4. 参考文献

枝廣敦子（2018）『アニマルウェルフェアとは何か－倫理的消費と食の安全－』

岩波書店

林良博・近藤誠司・高槻成紀（2002）『ヒトと動物－野生動物・家畜・ペットを考える－』 朝北社

警察庁生活安全局生活経済対策管理官（2025）「令和 6 年における生活経済事犯の検挙状況等について」

提出日 2025年7月4日

テーマ：月経の社会的理解と生理休暇の現状と課題

心理福祉専攻 森ゼミ

学籍番号 P022030 氏名 棚本梨乃

1. 研究の目的

月経は世界各地においてタブー視されてきた。女性は月経があるばかりに生活、行動が制約されてきた歴史がある。

現代においても、月経に関する不調を訴える女性が多い。内閣府が行った「令和5年度男女の健康意識に関する調査」によると、月経に関する不調による生活への支障があると回答した女性は全体で80%以上だった。これは、働く女性にとっての課題の1つである。労働基準法において「生理休暇」が定められてはいるものの、実際には取得しにくいと感じている人が多く、取得率は内閣府の「男女共同参画白書令和6年版」によると0.9%とかなり低くなっている。

また、月経に対する偏見の背景には、月経教育が十分に行われていないことも関係していると考えられる。月経指導が女子生徒のみに限定されることも多く、男子が月経について学ぶ機会は少なくなっている。それによって、男女によって理解の差が生じてしまったり、正しい知識を持っていなかつたりする現状がある。

本研究では、月経に関する歴史的な偏見から現在の月経に関する認知、月経教育の現状、また、生理休暇の実態と課題について調査していく。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

4月～7月 文献調査、まとめ、分析

9月～12月 論文執筆、推敲、論文完成

4. 参考文献

武谷雄二（2012）『月経のはなし』中央公論新社

内閣府男女共同参画局（2024）「令和5年度男女の健康意識に関する調査報告書」
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/kenkou_r05s/10.pdf

内閣府男女共同参画局（2024）「男女共同参画白書令和6年版」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r06/zentai/pdf/r06_11.pdf

小塩若菜・杉田映理（2024）「高校生の月経対処からみる日本の月経教育の課題 - 大阪の教師と生徒の語りから」『未来共創』11巻 p 63-99
https://www.jstage.jst.go.jp/article/miraikyoso/11/0/11_63/_pdf/-char/ja

提出日 2025年7月3日

テーマ：ディズニーキャラクターから見る性役割の変容

心理福祉専攻 森ゼミ

学籍番号 P022036 氏名村上陽菜

1. 研究の目的

ディズニーアニメーションにおけるキャラクターの性役割は時代とともに変化している。アニメーションでは各時代にあったキャラクター像が求められ、その時代の価値観を反映したキャラクター像が作られてきたと言える。時代の価値観が変われば、キャラクターの願望や理想も変化し、物語にも影響する。そして各時代の観客の価値観に合わせて、ディズニーキャラクターは変化してきた（島田, 2022）。

子どもから大人にまで愛されているディズニーアニメーションは、時代とともに変化することで、その時代の女性、男性の生き方をキャラクター像で表しているのではないか。

本研究では、文献調査を通してディズニーキャラクターと社会の性役割の変化の関連性について分析し、性別に縛られない社会を目指すにはどうすればよいのかということについて考察する。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

4月～7月 文献調査、分析、まとめ

9月～12月 論文執筆、推敲、完成

4. 参考文献

岩井 八郎 (1998) 「女性のライフコースの動態 - 日米比較研究 - 」

『京都大学教育学部紀要』第44号、p24-52

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/266432/1/eda44_024.pdf

島田 英子 (2022) 「ディズニーのフェミニズム プリンセスの女性学と

男性学」『立命館映像学』第15巻、p93-107

<https://ritsumei.repo.nii.ac.jp/records/16029>

提出日 2025年7月4日

テーマ：四国における防災意識ならびに防災行動に関する現状と課題

心理福祉専攻 森ゼミ

学籍番号 p022037 氏名 村上 琉奈

1. 研究の目的

四国地域における防災意識の現状については、内閣府の「防災に関する世論調査」などから、一定の防災意識が育まれていることが明らかになっている。しかし、四国は地震や豪雨などの災害が多発する地域であり、地域住民の防災意識をさらに高めることが課題である。一方で、防災意識が高まったとしても、それが必ずしも具体的な防災行動に結びつくとは限らないという問題点も指摘されている。そこで本研究では、内閣府の調査をもとに四国地域における防災意識と防災行動の現状を調べるとともに、四国の地域特性を踏まえた効果的な防災の取り組みや対策を考察することを目的とする。

2. 方法

- ・内閣府の「防災に関する世論調査」から四国地方に該当する回答データを抽出し分析を行う
- ・四国4県間の地域差や年代・性別ごとの傾向も比較検討し、特徴的な防災意識と行動のパターンを明らかにする
- ・四国特有の災害リスクや過去の被災事例も踏まえ、関連文献と照合しながら考察を深める

3. 今後の計画

- 6～8月：内閣府の調査データを整理・分析、愛媛県の防災関連資料・報告書の収集、四国各県の防災関連資料・報告書の収集
- 9～11月：四国のデータの分析実施、地域・属性ごとの傾向を分析
- 11～12月：分析結果をもとに考察、論文執筆
- 12月：最終修正、発表準備

4. 参考文献

内閣府 2022年「防災に関する世論調査」<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-bousai/#gaiyo> 2025年7月4日閲覧

提出日 2025 年 7 月 2 日

アニメ業界における人口知能（AI）の活用とその影響

森ゼミ 心理福祉専攻

学籍番号 p022501 氏名 東 美里

1. 研究の目的

近年、生成 AI が急速に発展し様々な議論と話題を呼んでいる。アニメ業界では 30 分のアニメを制作するために 200 人以上のアニメーターが関わって制作されているが、賃金が少なく人手不足が問題となっている。こうした中、アニメーターでは難しいと言われるキャラクターの細やかな表情・動作の作成などに AI の活用が期待され、アニメ制作における未来の可能性を広げるとと言われている。しかし、実際には AI 技術を導入することで今まで培ってきたアニメ技術が低下していくのではないか、また、この技術開発は、投資をしても失敗する可能性があるのではないか、などと懸念されている。競争の激しいアニメ業界において AI 技術の進化に伴い制作現場が大きく変わろうとしている。メリットが多いと思われていた AI にはまだまだ課題がある。本研究はアニメ業界の現状と AI の使用の賛成・反対それぞれの詳細な意見を明らかにし、アニメ業界と AI のこれからとの関わりを考えていく。

2. 方法

文献調査

3. 今後の計画

7 月～9 月 データ収集、文献調査、分析

10 月～12 月 論文執筆、推敲、完成

4. 参考文献

はたなか たいち 2019 「創作者と人工知能が描くアニメ業界の未来」「人工知能学会全国大会 第 33 回 発表要旨」

経済産業省 2024 「コンテンツ産業における最先端技術活用に関する調査」

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/contents/ai_houkokusyo_set.pdf

永松 伸太朗 2016 「アニメーターの過重労働・低賃金と職業規範」～『職人』的規範と『クリエーター』的規範がもたらす仕事の論理について～」『労働社会学研究』17 卷 1-25 ページ。